

Primary Years Programme

言語についての方針

言語についての方針

言語は単なる言葉ではありません。それは文化であり、伝統であり、コミュニティの統合であり、コミュニティとは何かを作り上げる歴史全体です。それはすべて言語で具体化されています(ノーム・チョムスキー)。

私たちは、言語は自分の感情や考えを表現するためだけでなく、周囲の世界を理解するためにも使用されるものであると信じています。Sozen International School の目標は、生徒が自分自身のアイデンティティを受け入れ、理解し、異なる文化や視点を尊重し、理解できる環境を作り出すことです。

言語は生徒に力を与え、他のすべての学習、成長、発達の継続的な学習をサポートします。学校では、生徒が人々とコミュニケーションをとることを目的として、主要な英語学習環境と文学を推進しています。私たちはまた、多言語主義と母語開発を尊重し、評価します。

Sozen International School では教師全員が語学講師であり、話す言語に関係なく、コミュニティのメンバー全員が言語学習者です。

さらに、私たちは、社会的、文化的、学術的な建設的な理由から、言語は意味のある文脈で学ぶのが最も効果的であると信じています。また、複数の文化のおよび言語的情報源からテキストや文献を体験することを通じて学びます(国際バカロレア、IB プログラムにおける学術リテラシーの開発)。

言語学習の方針

英語イマージョン

言語の発達の子供の発達の重要な部分です。コミュニケーション、感情の表現と理解、思考と学習、問題解決、人間関係の構築と維持といった、子どもの能力をサポートします。

私たちは、幼児期の子どもたちは、遊びや探検だけでなく、探求ベースの学習アプローチを使用した会話を通じて多くのことを学ぶ、体験型の概念学習方式を採用しています。体験型の概念学習の主な指導言語は英語です。

英語力を身につけることは、生徒の将来の可能性や選択肢を広げ、異なる価値観や文化への理解を深められるため、学生が英語漬けになれる環境を構築しました。

私たちは真の教師と生徒の関係、双方向の学習を提供し、知識を教えることよりも概念を学ぶことに尽力しています。

私たちは、母語ではない指導言語である英語で取り組んでいる生徒たちに継続的なサポートを提供します。当校の英語イマージョン プログラムは、英語能力がまだ英語教室で独立して活動できるレベルに達していない生徒をサポートするために役立ちます。

書籍、参考資料、マルチメディア リソースからの情報にアクセスするさまざまな機会と経験を生徒に提供することで、バイリンガルに理解を促します。

母国語のサポート

当校の生徒のほとんどは日本語を母国語としています。家庭では中国語や英語を使用している生徒もいます。別の言語を習得するには、アイデンティティ、文化的理解、信念を維持するために重要な母語を開発する必要がありますので学校での完全な英語環境を維持しながら、生徒の母国語をサポートにも取り組んでいます。

生徒は、言語を通じて自分の感情、感情、考え、アイデアを口頭および非言語で表現し、コミュニケーションします。私たちは、彼ら自身の言語、文化、信念を完全に受け入れながら、英語を使用してコミュニケーションすることに対する自信、受容、理解を育むことを目指しています。

SIS では、すべてのスタッフと教師が生徒の言語発達に対する責任を共有します。

スタッフと教師は、必要なときや緊急サポートの際には生徒が一番理解できる言語を使って対応することがあります。

保護者と教師の会合やカンファレンスでは、家庭での言語発達の重要性を強調しています。

多言語主義の信念

SISには、英語のネイティブスピーカーが在籍しています。私たちは、複数の言語に触れることで、生活と学習のあらゆる分野において、複数の視点、理解、共感への扉が開かれ国際感覚が育つと信じています。

指導言語

学校では英語を指導言語として使用し、英語からの学習を翻訳することで母国語の発達を奨励しています。

コミュニティでは、言語とコミュニケーションの目標を達成するために英語を使用することが奨励されていますが、特に保護者会や会議の際にはバイリンガルや日本語を使用することが奨励されています。

言語学習の目標

役割と責任

私たちは、子どもたちと地域社会が言語を使用し、役割と責任に基づいて行動するスキルを身につけることを支援するよう努めています。

学生は次のことを学びます：

- 言語学習
- 言語を使用してニーズを表現し、伝達する
- 友人やコミュニティと時間を過ごし、彼らの言語を使ってリクエストをしたり対立を解決したりする
- 口頭および非言語コミュニケーションの両方で、自分の感情、感情、考え、意見、アイデアを表現し、伝えることができる
- 周りの世界についてもっと知るために質問したり探求をする
- 自分自身が率先して学び、それを他の人と共有する
- コミュニティの他のメンバーの意見を尊重しながら、言語を使用してさらにコミュニケーションを図りたいという欲求や興味を育む

教師は次のことを行います：

- 言語の発達に積極的な役割を果たす
- SIS 言語ポリシーを理解し、同意する
- 安全で楽しく、協力的な学習環境を提供する
- 効果的なコミュニケーションのための模範となる
- 言語発達に関する適切かつ効果的なフィードバックを生徒とその保護者に提供する

保護者は次のことを行います。

- SIS 言語ポリシーの理解とサポートに積極的な役割を果たします。
- 子供たちが母国語を使用できるように奨励し、サポートします。

- 自分の子供の学習のあらゆる分野をサポートする
- お子様の学習発達の進捗状況について学校とコミュニケーションをとることに積極的である

SIS管理部は次のことを行います。

- コミュニティのすべてのメンバーが SIS 言語ポリシーにアクセスできるようにサポートを提供する
- 言語ポリシーの適切な実施と実践を保証する。これには、更新の評価と定期的なレビュー、およびその進行状況と発展の記録の保管が含まれる。

言語コミュニケーションと言語経路

SIS では、すべての生徒が IB プログラムを受講します

情報、アイデア、問題について聞き、考え、議論し、熟考するためのツールとして言語を使用します (Halliday 1980)。

Strand	Receptive – receiving and constructing meaning	Expressive – creating and sharing meaning
Oral Language	Listening	Speaking
Visual Language	Viewing	Presenting
Written Language	Reading	Writing

言語コミュニケーションの受容的側面と表現的側面 (IB PYP 言語の範囲と順序)

それぞれの要素が言語学習において重要な役割を果たします。すべてのコミュニケーションは、受容的な側面と表現的な側面の両方で構成されています。

学習成果

口頭言語 - 聞くことと話すこと

Year 1 (Ages 3-4)	Year 2 (Ages 4-5)	Year 3 (Ages 5-6)
• ジェスチャー、動作、ボディランゲージ、言葉を使ってニーズを伝え、アイデアを表現する • クラスメート、教師、馴染みのある教室や遊び場のオブジェクトに名前を付けます • 言葉、ジェスチャー、物体や工芸品を使って自分のストーリーを語る • 文脈の中で単一の単語と2つのフレーズを使用する • 共有ブックで詩、韻、歌、繰り返しのフレーズに参加する • 簡単な質問を理解し、行動や言葉で答える • コンテキストの合図を使用して、教室の指示とルーティンに従います。 • 人々は異なる言語を話すことを理解する • 英語を使用して(必要に応じて翻訳を加えて)ニーズを表現し、アイデアを説明する • 文法意識を養うプロセスの一環として独自の文法スタイルを使用する	• 少人数または大規模なグループで、時間をかけて聞いて応答する • 読み上げられる物語を聞いて楽しむ。口頭、書面、または視覚的な形式で応答して理解を示す • 教室の指示に従い、理解を示します • アクセス可能な音声テキストから簡単な情報を取得する • 個人的な経験を説明する • アクセス可能な音声テキストから簡単な情報を取得する • 言葉を使ってニーズに応え、感情や意見を表現する • 語順は言語によって変わる可能性があることを理解する • 自分が作成したストーリー、文章、写真、モデルについて話す • 複数の言語でコミュニケーションを始める	• 情報を得るために質問したり、自分自身またはクラスに向けられた質問に答えたりする • 教室での活動、会話、想像力豊かな遊びの際に口頭言語を使ってコミュニケーションをとる • 小グループでの対話では、注意深く聞き、適切に話します。 • 会話の中から主要な出来事と関連するポイントを抽出する • 2段階の指示に従います • テキストの読み上げを聞いたときに起こりそうな結果を予測する • さまざまな個人的な目的のために言語を使用する • 他の人からの貢献を尊重しながら、考え、アイデア、意見を表現し、議論する。 • さまざまな目的に合わせて特定の語彙を理解して使用する • 言語間の違いを聞いて理解する

ビジュアルランゲージ - 表現とプレゼンテーション

Year 1 (Ages 3-4)	Year 2 (Ages 4-5)	Year 3 (Ages 5-6)
-------------------	-------------------	-------------------

•たとえば、面白さ、好奇心、驚きを示すなど、視覚的なプレゼンテーションに応じて自分の感情を明らかにする •コンテキストを示す視覚的な手がかりを観察します。写真と文脈を一致させて理解を示す •歩行者用標識、非常口標識、犬立ち入り禁止など、見慣れた標識、ラベル、ロゴを認識します。類似点と相違点を特定する •ボディランゲージを使用してコミュニケーションを図り、理解を伝える(指さし、身振り、表情など) •色、形、記号、画像を選択して視覚的なプレゼンテーションに組み込む •お気に入りのページに焦点を当てて、馴染みのある本を選択して再読することで、絵本の挿絵を鑑賞することができます。 •ビジュアルテキストに関連する用語を聞き、色、形、サイズなどの用語を理解する	•ディスカッション、ロールプレイ、イラストを通じて理解を示す視覚的な情報に注意を払う •視覚的なメッセージに応じて自分の感情について話す。他の人が感じているかもしれないことに共感を示す •雑誌や広告カタログでおなじみの視覚的なテキストを見つけて、それらを関連製品と結び付ける •視覚情報を自分の経験と結び付けて、自分自身の意味を構築する(たとえば、旅行に行くとき) •マイムやロールプレイでボディランゲージを使用して、アイデアや感情を視覚的に伝えます •さまざまな道具を使用して、手書きやプレゼンテーションのスキルを練習し開発します。 •絵本や簡単な参考書のイラストを観察して話し合い、伝えられている情報についてコメントする •視覚的なイメージを観察し、それが特定の目的を達成するために作成されたものであることを理解し、表現できるようになります	•視覚的なテキストで示されたさまざまな文脈を、自分の経験に基づいて関連付けます。たとえば、「あれは私の叔父の農場に似ています。」 •視覚的な情報を見て、関連する質問をしたり、考えられる意味について話し合ったりして理解を示します。 •視覚的なメッセージに応じて自分の感情について話し合う。他の反応に耳を傾け、人によって反応が異なることに気づきます •視覚的なイメージと結びついた個人的な経験について話し合う •プレゼンテーションに適した形、色、記号、レイアウトを選択して使用する •指導を受けながら、インターネットを使用して関連情報にアクセスします。個人的に意味のある方法で情報を処理し、提示する •教師のモデリングを通じて、特徴、レイアウト、境界線、フレームなど、効果について説明するために使用される用語を認識する •同じ物語の異なるバージョンを見て、同じ物語を語るさまざまな方法の有効性について議論する(たとえば、物語の絵本版と映画/映画版)
--	---	---

言葉－読書

Year 1 (Ages 3-4)	Year 2 (Ages 4-5)	Year 3 (Ages 5-6)
• 話を聞くのを楽しむ • 自分で選択したテキストの興味のある側面を見つけて応答する(指差し、写真をよく調べる、コメントする) • 共有読書に参加し、韻を踏んだり、リフレインしたり、テキストの繰り返しに参加したりして、慣れ親しんでいきます。 • テキストを聞いたり「読んだり」するときに、自分の経験と結びつけます。 • 自分の名前を認識する • 物語の登場人物に共感を示す • 本を扱い、本の仕組みの理解を示す(例: 表紙、始まり、方向の動き、終わり) • 聖歌、詩、歌、言葉遊び、手拍子遊びなどに参加し、指導言語の音やパターンに慣れる	• お気に入りのテキストを選択して読み返して楽しむことができます • 活字は永続的であることを理解する。たとえば、おなじみの話を聞いているとき、読者が省略したり部分を変更したりすると気づきます。 • 共有読書に参加したり、質問をしたり答えたり、リフレインに参加したりする • 注意深く話を聞き、話に声を出して応答する • 個人的な経験と童話の登場人物を結びつけます • 音と記号の関係を理解し、言語コミュニティの馴染みのある音/記号/単語を認識する • 画面上のテキストの構成は、書籍上のテキストの構成とは異なることに気づく・役を演じたり会話を読んだり、おなじみの物語のリフレインを繰り返したり、詩を暗唱したりする学習活動に参加する	• 個人的な好みを発展させ、楽しみや情報を得るために本を選ぶ • 教師と進める読書を通じてグループで効果的に交流する • 注意深く聞き、読み上げの状況に積極的に反応する。予測を立てる、起こり得る結果を予測する • 自分で選択したテキストおよび教師が選択したテキストの意味を適切なレベルで読んで理解する • 物語の始まり、中間、終わりの基本構造を特定し、説明する。要素を伝えるためにストーリーボードや漫画を使用する場合があります • 標識、広告、ロゴ、図像など、身近な環境にある印刷物を読んで理解する • 童話の登場人物の性格や行動について話し合い、彼らが特定の方法で反応する理由についてコメントする • 増え続ける高頻度で関心の高い単語、文字、記号を瞬時に認識します • 人々は物事の見方が異なり、視点を表現する権利があ

		ることを認識して、共同学習体験に参加する • 文章について疑問に思い、著者が読者に何を言っているのかを理解するために質問する
--	--	---

言葉 – 書くこと

Year 1 (Ages 3-4)	Year 2 (Ages 4-5)	Year 3 (Ages 5-6)
• さまざまな道具や媒体を使って書いてみる • 遊びとして、または非公式な状況で書くことを選択する（たとえば、郵便局のふりをしてフォームに記入する、パーティーのメニューや欲しいもののリストを書くなど） • 音と記号の関係を認識し、聞き慣れた音を録音する方法を認識し始める • 自分の名前を独立して書く	• イラストと文章を区別する • 書くことを楽しみ、自分の努力を大切にする • 絵を描いたり「書く」ときの刺激として自分の経験を活用する • 好奇心を示し、書き言葉について質問する • 共有作文に参加し、教師の作文を観察し、提案をする • 指導言語に従って、印刷物の慣例を遵守しながら、共有された本（拡大されたテキスト）を聞いて応答する。 • 文字、数字、記号を区別し始める • 自分が書いたテキストに合わせてイラストを作成する	• 最初は「私は...が好きです」、「私は...できます」、「私は...に行きました」、「私は...に行きます」などの単純な文構造を使用して、個人的な日記や日記に自分の考え、経験、感情について非公式に書きます。 • 自信を持って執筆プロセスに取り組む • 自分の書いたものを先生やクラスメートに読んで、自分が書いた内容が変わっていないことに気づきます。 • ニュース記事、指示、空想記事など、特定の聴衆にメッセージを伝えるために書くこと • 順序、間隔、方向性など、書かれたテキストの規則を認識していることを示す • コードの種類（文字、数字、記号、単語/文字など）を区別します。

		• 頻繁に使用される単語やアイデアを独自に書くことが増えています。 • 教師や他の生徒からのフィードバックを活用して作文を改善する • 教師とのミーティングに参加し、教師が進捗状況を記録し、新しい学習目標を記録します。自己監視し、改善に責任を持ちます • 教師の指導を受けて、手書きまたはデジタル形式で著作物を出版する
--	--	--

レビューサイクル

- 言語ポリシーのオリジナル版は、2023 年 11 月 14 日に サリタ・エドマールによって起草され、2024 年 1 月 10 日に更新されました。
2024 年9月 12日に再更新されました。
- この文書は評価委員会によって共同で検討されます。
- 言語ポリシーは、指定された評価委員会によって毎年新学期の開始前に見直され、改訂されます。

参考文献

この文書を作成するために、次の学校の言語ポリシーが参照および適用されました。

- サニーサイドインターナショナルスクール
- カルガモイングリッシュスクール
- マヒンドラインターナショナルスクール
- PREMインターナショナルスクール

この文書を作成するために次の文書を参照しました。

- PYPを実現する
- 初等年度プログラムの言語範囲と順序